



会員近況

ユニバーサルマリコンサルタント(株) 調査部 **長尾 真也**

最近岩波刊日本文学史第4巻中世の、西尾実氏著世阿弥を読みましたが、その内容が能におけるORともいえる非常に面白いものでしたので、その中でこの会員近況報告と関連して一番心をひかれたことを記してみます。

世阿弥は能における演出効果を四季折々に時を得て咲く花にたとえているのですが、彼の伝書の書名だけからいっても、「風姿花伝」「至花道」「花鏡」等主要伝書には例外なく「花」の語が用いられており、その中心意義は「花」は感興であり、しかも新鮮な感興であるということに尽かされている。これを達成するのは不倒不屈の稽古の累積からのみ成立する心の工夫によって開くといっている。そうして「この道を究め終りて見れば、花とて別にはなさもなり。」ということから、「ただ、時に用いるをもて、花と知るべし。」という原理を発見している。花についての伝書はこの「時」の分析であり、「時」に適中した演出の考察であった。

「おもしろき」が花であり、「めづらしき」が花であると感興を説いた彼は、それを成立させるものは、「時」に的中させることだという原理を実践的に発見し、実証的に自覚し得ている。ORの実施に当り大切なことがらと思っているので、報告の締切の時にも合わせ寄稿した次第です。

日本航空 整備本部整備部 **粥川 浩平**

手がけている仕事の1つに向こう3カ月の航空機運用スケジュールを管理するシステム計画があります。

コンピュータの大量のデータおよびスケジュール機能と、人間側の非構造的な情報や状況判断能力とを組み合わせる手段として、多数の便の接続関係を大画面のカラーディスプレイ上に表示して Combinatorial な判断を行なう…というのが発想の出発点です。

【意見】 エアラインのOR活動の情報交換を行なうAG IFORS (Airline group of IFORS) などに参加し

て思うのですが、実際面でORが有効なのは手法や計算結果よりはむしろ、問題の切り方をつうじて問題の本質が見えてくる過程(つまり Research そのもの)のほうではないか…という気がしております。

昭和電工(株) 大町工場 技術課 **古川 博茂**

大学を出て8年、信州の工場でプログラム・設計に従事しています。最近感じるのは帳票設計ひとつとっても1頁ベストノで、盛り沢山の内容を織り込む必要があり芸術品の域に近づいてきた…楽なソフトないかな。

反面、条件書もなく一言頼めば何でもコンピュータがやってくれるだろう…コンピュータ楽観論者や、自分でグラフを描けば2~3時間で解決する問題も、コンピュータ帳票でなければ駄目という…コンピュータ絶対論者もいて、交通整理がたいへんです。

化学工業はエネルギーMINをめざして、いろいろ施策をしています。私の工場でも石油→電気→蒸気への転換、水力発電の有効利用、消費電力の平滑化など進めています。

これらの意思決定、データ処理にコンピュータをフルに活用しています(? もっか努力している)。

たまには名古屋支部の研究會に出席して世間の情勢をキャッチし、田舎ボケしないようにしています。

中国計算センター 企画調査室 **別府 守雄**

ORは大企業のもの、中小企業には縁のないものとは考えたくないのですが、現実には中小企業経営においてORが活かされているという話はあまり聞きません。日本では中小企業の数が99%以上を占めているのに、ORワーカーの99%以上は大企業で活躍しているのが現実でしょう。中小企業がORを導入し、前近代的企業から科学的マネジメントに脱皮することが必要だと思えます。

現在長期経営計画策定の仕事をしています。市場予測、設備計画や新製品開発計画にORの発想・手法を活かしたいと思っていますが、勉強不足で具体的な展開がなかなかできません。コンピュータ産業の技術革新が速く、こう影響が情報処理サービス業界におよぼすものが何であるかを5年先まで見通すことはきわめて困難です。中小企業における長期経営計画はいかにして策定すればよいのか、昨今の私の悩みの種となっています。

小林電子産業(株) 中村 勝三
大阪営業所

現在、ますます高性能化の一途をたどるパソコンの活用に大いなる興味を抱いております。従来主成分分析や判別函数法等の多変量解析は中小型電算機でFORTRANを用いて組んでいましたが、手元でより簡便に処理できるようパソコンでBASICへの組み直しを楽しんだり、またその他の特殊な業種向ソフトの開発を企画したりの日々に“第三の波”にひたひたと足元の洗われるのを身近に感じている昨今です。

思えば、私が今日、経営スタッフとして経営分析や商品開発の企画を業とするにいたったきっかけは奇しくもORとの出会いにあったと申しても過言ではありません。私は本来セラミックス(窯業)の技術屋で硝子会社に勤務し硝子の失透の研究や硝子槽窯の設計に従事していました。15年前の当時、手計算では大変であった槽窯の熱精算に初めて電算機を用いてその威力に感激したものでした。

それがきっかけとなって管理工学を学びORを知り、遅ればせながら経営科学に魅せられ電算機の自社導入も果しましたが硝子瓶業界の不況とともによりこの方面を極めようと、電算機や電子部品の卸売を業とする現在の会社に移って早や6年目になります。未熟ながら企業におけるいろいろの業務経験を糧として経営コンサルティングの分野も勉強したいと考えております。なにとぞOR学会会員皆様のご指導をお願いする次第です。

神戸商科大学 斎藤 清
経済研究所

一昨年から「需要予測」の授業を受けもっています。そのさい、コンピュータによる実習も行なっています。具体的には、私が作成したプログラムXCAMPUS/V1 (Extended Computer Aided Multivariate Processing University System/Vector-version 1——大学用多変量処理拡張システム/ベクトル・バージョン1)を用いて、本学の情報処理教育センターに常駐しているNEEDSデータバンク(日本経済新聞社の総合経済ファイルと産業ファイル)から学生が自由に任意のデータを選び出し、試行錯誤を繰り返しながら時系列解析や回帰分析を行なうものです。最初に私が例題を提示し、学生がそれを模倣する形で自由に分析を深めていきます。講義だけでは実感のつかみにくいデータ解析を体得するの

に役立っているようです。学生の意外な事実発見にこちらが教えられることもあります。

なお旧システムのCAMPUSは神戸商科大学「研究資料」No.14に公表済みです。新システムのXCAMPUS/V1については未発表ですが、適用例もかなり揃いましたし、個人研究の最近の成果もいくつかシステムに組み込みましたので、今年中にマニュアルを発行したいと考えています。

任天堂(株) 河野 裕
開発第2部

OR学会に入って早くも3年が経過いたしました。現在、ビデオゲームの企画および作製を担当しております。最近ではゲームも多種多様になり、以前にくらべて複雑化しつつあります。ゲーム製品完成までの種々の面で、今まで学んできたOR理論を用いてできるだけ効率よく仕上げようと常に考えていますが、なかなか思ったようにいかないのが現状です。

今後は、できるかぎり例会に参加して、常に新しい考え方を吸収するとともに、自己啓発にも役立てたいと思っています。

最後に私自身の希望といたしまして、できるだけ例会等は週末の午後を開いていただけたらと思う次第です。

豊田工業(株)技術本部 杉本 文一
自動車技術研究所開発実験室

昭和51年に入社以来約3年半は技術計算グループに所属し、主として社内用の有限要素解析プログラムの開発と普及に携わってきました。専門は信頼性理論でしたので、当初は応力の意味がわからないという笑えぬ話もありましたが、基本がわかればあとは積み重ねで、私の開発したプログラムが今でも使われているのを目にする、ある種の感慨があります。

昭和54年11月に四輪車機器実験グループへ所属変更となり、現在は主として四輪車用緩衝器の信頼性評価を担当しています。このような仕事をしていきますと、どうしても応力計測とか材料とかのハードの信頼性の知識が必要となります。そういう関係で最近読みました北田正弘著『初級金属学』(アグネ)は、私のような素人にとっても読みやすく、しかし単なる実用書でなく1つの思想をもって書かれているという意味で、好著との印象をもちました。

(情報処理学会、自動車技術会 各会員)